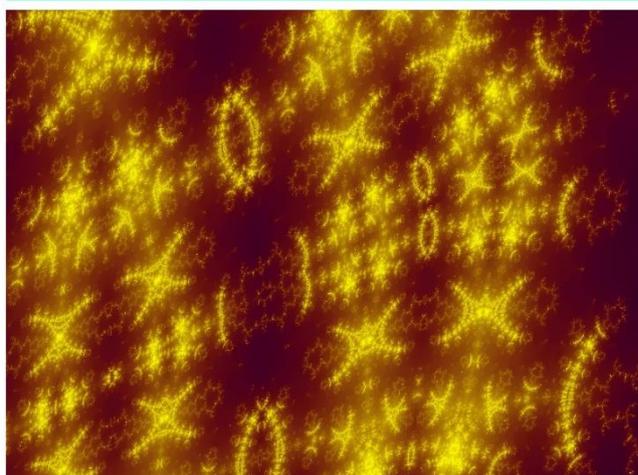
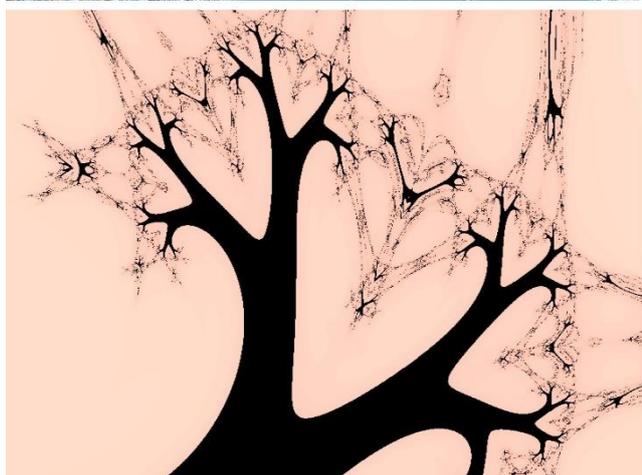
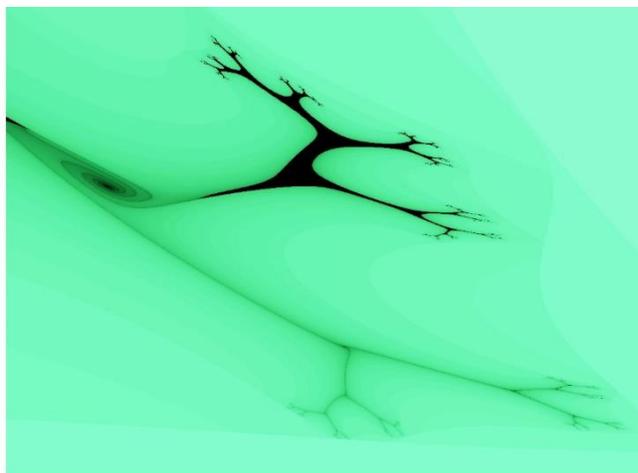
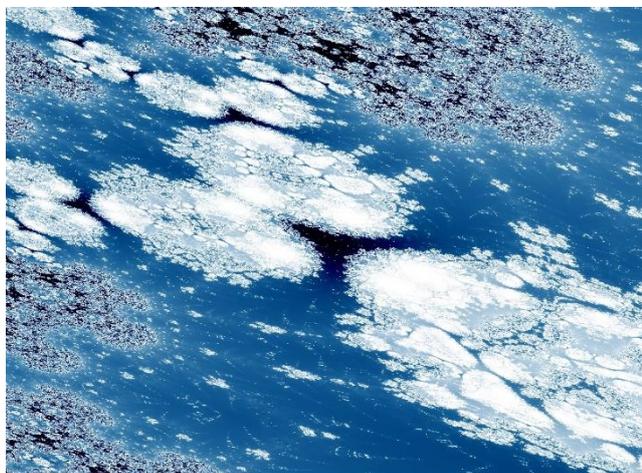


# 近畿



173号



## 【コンピュータが描いた絵】

これらは「人工知能が描いた絵」ではない。

画面の1点ずつの座標を簡単な式に代入して、繰り返し計算した結果を色で表したものである。これらの絵は漸化式を使って計算しているため、フラクタル構造が現れている。前の計算結果を次に反映させていくという非線形の世界だ。昨日の行いが今日に、今日の行いが明日に反映する、まさに現世そのものではないだろうか。

佐伯 英子 (情報工学)

# 目 次

[ 項 目 ]	[ 執筆者 ]	[ 頁 ]
<b>表 紙</b> コンピューターが描いた絵	佐伯英子	1
<b>巻頭言</b> 社会からさらに期待される「技術士」を目指して	間島勝彦	3
<b>近畿本部/支部 報告・予告</b>		
2019 年度第 6 回役員会議事録 (案)	田岡直規	4
第 13 回災害対策セミナー (神戸防災のつどい 2020)	幸 徹	6
第 5 回近畿本部協賛団体特別セミナー	伊藤雄二	10
第 39 回産学官と技術士との合同セミナー (京都)	奥村 勝・綾木光弘	12
近畿本部倫理シンポジウム 2020	細谷陽三	17
2019 年度技術士第一次試験合格者 (修習技術者) 祝賀会	大野一成	20
2019 年度技術士第二次試験合格者祝賀会 案内	事務局	22
<b>部会/活動グループ 報告・予告</b>		
近畿本部 環境研究会	寺川博也・藤井 武・濱崎彰浩・佐々木一恵	23
近畿本部 技術士業務研究会	三木茂男	26
近畿本部 電気電子部会	本田浩一	28
近畿本部 ISO 研究会	竹内修治・村上禮三	30
近畿本部 情報工学部会	野原英則・本多利行	31
近畿本部 経営工学部会	山口 誠	32
近畿本部 農林水産部会	中桐 栄	34
近畿本部 関西食品技術士センター	戸口昌俊	35
近畿本部 建設部会	中川恭男・森 高志	36
<b>技術解説</b>		
コンピューターが描くカオス・フラクタルの世界	佐伯英子	37
<b>編集室だより</b>		
5-6 月行事予定	きんき編集室	40
きんき電子版配信中	きんき編集室	40
みなさんの原稿大募集 (特集「スポーツと技術」)	きんき編集室	40
編集後記	木藤 茂	40

## 社会からさらに期待される「技術士」を目指して

近畿本部 副本部長 間島 勝彦（経営工学）

今回は、2年前の私の「巻頭言」第2弾として、①社会からさらに期待される「技術士」と②「技術士」の社会貢献活動の拡大について、最近の近畿本部での活動を振り返り今後の活動に向けて情報発信させていただきます。あくまで近畿本部の一人の「技術士」からの意見としてお読みください。

### 1. 一般社会から見た「技術士」及び「日本技術士会」について

最近の様々な日本技術士会の活動を通じて「技術士」及び「日本技術士会」がどのような資格であり、どのような組織であるかは少し認識されてきているとは思いますが、他の士業の資格や組織に比すれば十分とは言い切れないと思います。引き続き色々な場面にて社会からの認識度を高める活動が必要と考えます。

### 2. 「技術士」及び「日本技術士会」の強みについて

若い人の理数科離れなどが言われる中、技術士の皆様には実務経験をベースにお持ちの技術力とその適用力が国家資格として保証されており、その技術力は大きな強みと考えます。技術士資格の対象技術部門は21部門有り、現在の産学官の各方面から求められる技術領域をほぼ全てカバーしています。また、毎年新たな技術士が合格され、時代にマッチした新たな技術への対応力がある技術士の参画があります。既存の技術士は、継続した研鑽活動（CPD）から常に新たな技術にも対応できるように研鑽を行い、従来の技術力にプラスして新しい技術力を学び、社会が求める多様化したニーズに対応できる応用力を持っています。今の時代にはグローバルな対応が求められ、日本国内のみでなく国際的にも高い技術力を持った技術者として期待されています。

### 3. 「技術士」及び「日本技術士会」の課題について

年間を通じて多くの活動を実施していますが、未だ「日本技術士会」というクローズした組織内の活動が多いと思います。豊富でかつ高度な技術力を持っていながら、その技術力を社会に情報発信するパワーやチャンネル展開が未だ不足していると言わざるを得ません。産学官連携や産業界とのビジネス接点や地域社会との接点において「技術士」の力をアピールする努力が求められていると感じます。

### 4. 日本技術士会／近畿本部の今後の活動について

（1）新たな活動の切り口としては、組織内の活動に止まらず、もっと社会にその技術力をアピールする活動を期待します。そのためには、社会の課題解決を視野に入れるためにも、地域社会に出て行くことでどのような問題や課題が発生しているかを肌で感じ、技術士会の活動にその課題解決などを取り入れ、その活動結果を発表するなどして世間に技術力を発信すべきです。また、「日本技術士会」以外の各種研究団体や学会やビジネス団体との技術交流を積極的に行い、情報発信を行う必要があります。

（2）組織内の活動としては、企業内技術士を中心とした若い技術士が参加でき、相互に情報交換と技術交流ができる研修や意見交換の機会をつくり組織内部の活性化に向けた企画を推進することが必要です。

（3）少なくとも「日本技術士会」の5年後くらいの将来を見据えて新たな活動を行いたいものです。

### 5. 最後に私からのメッセージとして

「あらゆる機会を通じて、「技術士」と「日本技術士会」を社会にアピールする活動を！！」